

【講演要旨】

グローバル化する世界に暮らす —現代ネパールの諸相—

森本 泉

ネパールでは近代以前から交易や移牧で国境を越えて活動する人々がみられたが、20世紀末以降、世界的な移動のグローバル化の波にのって、ネパールからの出国者数が急増している（図1）。この増加の背景には、1996年にネパール共産党毛沢東主義派（当時）によって開始された「人民戦争」や、2001年に起きた王宮事件などの政情不安もある。また、2000年代に入ってマレーシアをはじめ韓国や中東諸国と、二国間協定を結んで以降、出稼ぎ者が急増し、2005年頃にはネパールからの出国者数とその入国者数を上回るようになった（図1）。

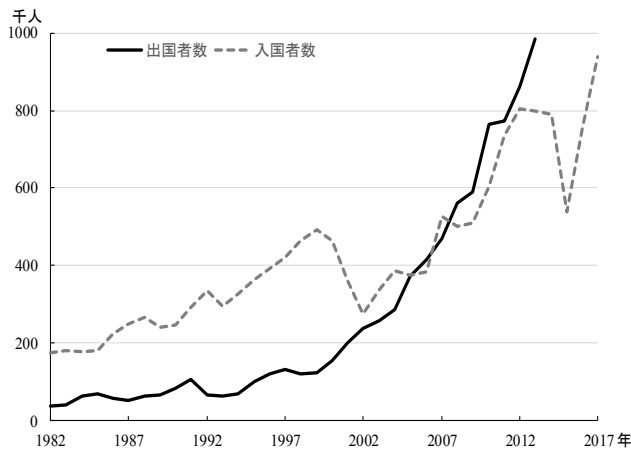


図1 ネパールにおける出入国者数推移

(Nepal Tourism Statisticsより作成)

出国者数が増加するにつれ、外国からの送金も増加し、ネパールの人々の暮らしに変化が見られるようになった。都市のみならず農村部にも新しい家が建てられ、各家庭でテレビなどの家電が購入されるようになった。2015年4月に発生したネパール大地震からの復興も、親族に出稼ぎ者がいるか否かによってその速度やかたちに差異が表れている。こうした送金による影響が身近で可視化されてきたことも、ネパールの人々を国外に駆り立てる要因となっている。GDPに占める外国送金額の割合は、2015年および2016年について世界で2番目に高くなっており、直近の5年間で30%前後を推移していることから、出稼ぎがネパール経済の重要な柱になっていることがうかがえる（図2）。

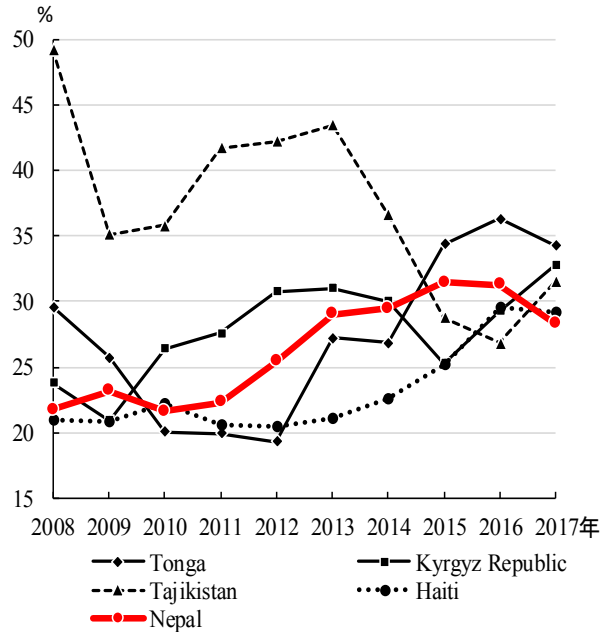


図2 GDPに占める外国送金額の推移

(世界銀行の資料より作成)

ネパール人が渡航する行先は、マレーシア、カタール、サウジアラビア、UAE、クウェートの順に多く、日本は第10位（2015/16-2016/17年）となっている。一方、日本では、外国人登録者数は1980年代から増加しているが、ネパール人が増加するのは比較的最近になってからである。表1が示すように、現在の日本における総在留外国人の主な出身国・地域は中国、大韓民国などアジアが多く、ネパールは9番目に多い。日本で、世界で唯一方形ではない国旗を店先に掲げたネパール料理店を見かけることや、コンビニの店員としてネパール人が働いているのを見かけることが増えてきたように、ネパールが身近に感じられるようになっている。

日本に滞在するネパール人は東京に最も多く集中しており、愛知、千葉、福岡、神奈川などの都市部や工業地域に多い（図3）。在留資格でみると留学が最も多く、家族滞在、技能と続く（図4）。ネパールからの留学先として日本は人気があるが、日本語学校への留学後は専修学校等に進学する人が8割強を占め、短大や大学に進学す

表1 日本における総在留外国人の

主な出身国・地域 (2017年)

国籍・地域	総数
中国	901,200
大韓民国	548,899
フィリピン	292,150
ベトナム	267,984
ブラジル	193,798
台湾	117,194
アメリカ合衆国	101,873
タイ	88,614
ネパール	81,144
インドネシア	75,580
ペルー	48,388
オーストラリア	42,067
インド	34,348
朝鮮民主主義人民共和国	30,859
総数	3,179,313

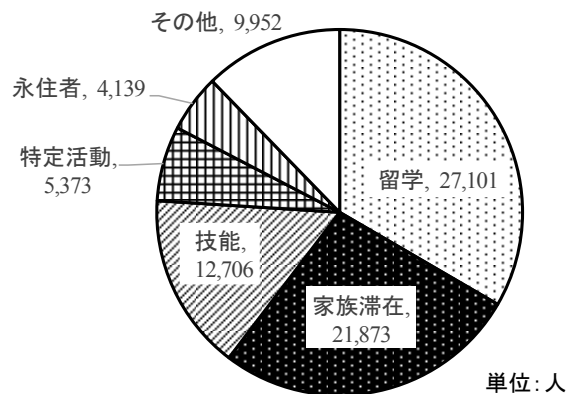


図4 在日ネパール人の在留資格別割合 (2017年)

(法務省在留外国人統計より)

難民認定申請をした外国人のうちネパール人が最多であったが、彼/彼女らも特定活動という在留資格で就労が認められている。

在日ネパール人の約8割が、以上の四つの在留資格で占められている(図4)。在日外国人の中でのネパール人の特徴は、技能資格の割合の高さである。ネパール人の技能資格滞在者は、1980年代に日本でエスニック料理への関心が高まるのを背景に増えたインド料理店で、インド人に雇用されていたネパール人料理人に起源が求められる。インド料理店の増加に伴い、そこで働くネパール人が増加し、やがて独立してネパール料理店を開業するようになった。このように、ネパール人がネパール料理店を開業し、そこで働くネパール人を呼び寄せるようになった。食べログ検索で「ネパール料理」の店を検索すると、全国で1,855件、東京都だけで584件ヒットする(2018年12月)。

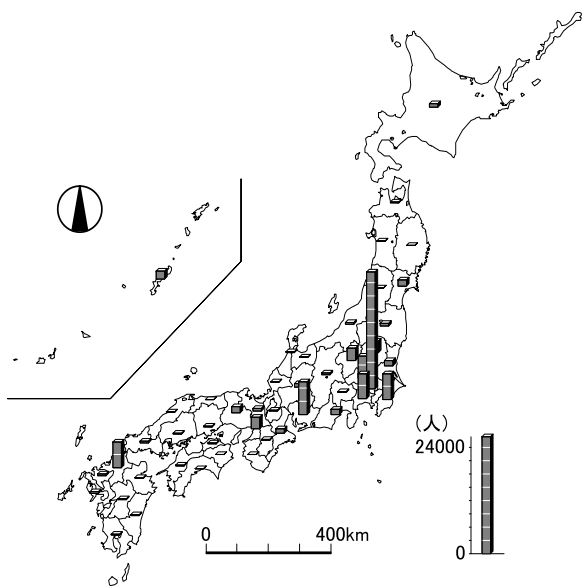


図3 在日ネパール人都道府県別人口分布 (2017年)

(法務省在留外国人統計より作成)

る人は少ない。在学中に1週間で28時間、資格外活動として就労許可が得られ、留学生は学費や生活費を稼ぐために働いている。技能資格滞在者は中国人に次いで多く、インド・ネパール料理店で働くネパール人が増加している。これらの留学資格や技能資格で滞在するネパール人が呼び寄せる家族滞在者も、資格外活動として就労が認められている。このほか、2015年および2016年に日本で



代代木公園で行われたネパールフェスティバル

(2017年 筆者撮影)

ネパール料理店の経営者は、1店舗につき3～4人の料理人を呼び寄せることが可能である。日本で料理人として働きたいネパール人は、こうした経営者に渡航手配料を支払う際に借金することが多い。日本に来てしばらくは借金を返済していかなければならず、料理人の中には家族滞在資格で妻を呼び寄せ、共働きしている人も多い。2000年代以降、不法滞在者は激減した一方で、ネパール人の中には、難民申請をして特定活動の資格で働きながら日本で暮らしている人もいる。

グローバル化とともに国境を越えるネパール人が増加し、世界各地で暮らすようになった。この人々の移動を引き起こす要因には、経済格差や賃金格差はもとより、世界の労働力需要とネパールにおける雇用機会不足がある。そして、国境を越える流れの一部が日本へ向かい、ここで料理人になったり勤労学生になったりして暮らしている。ネパール人がグローバル化する世界に暮らすということは、ネパールが身近な存在になりつつある私達自身もまた、ますますグローバル化する世界に暮らしていることにほかならない。

2018年12月に日本では深刻な人手不足の解消を目的に、既存制度の見直し等さまざまな問題を抱えたまま出入国管理法改正案が可決された。外国人単純労働者に門戸を開くことになる法改正であり、今後來日する外国人の増加が見込まれている。多くの移民を受け入れている欧米先進国では、社会的統合をめぐる包摂／排除の問題が顕在化している。今後、日本社会においても同様の状況が問題化することが予想され、多文化共生を前提とした包摂型の社会づくりが必要とされよう。

文献

- 田中雅子他 2018. 「特集1 在日ネパール人の暮らしと課題」『Mネット』197号.
西日本新聞社編 2018 [2017]. 『新 移民時代 外国人労働者

と共に生きる社会へ』明石書店.

- 南真木人 2008. 「忘れられた外国人—ネパール人移住労働者の現在」『アジア遊学：日本で暮らす外国人』117:130-137. 書誌情報.
南埜 猛・澤 宗則 2017. 「日本におけるネパール人移民の動向」『移民研究』13: 23- 48.
Gellner, D. and Hausner S.L.ed. 2018. *Global Nepalis: Religion, Culture, and Community in a New and Old Diaspora*, Oxford.
Kharel, D. 2017. *A Multi-sited Visual Ethnographic Study on the Nepali Migration from Malma to Japan: Network Migration, Transnational Ties, and Social Transformation* (2017年東京大学提出学位論文).
Minami, M. 2008. Overstaying Undocumented Workers on the Decrease in Japan: The Case of Nepali Immigrant Workers. In Yamashita, Minami, Haines and Eades ed. *Transnational Migration in East Asia: Japan in a Comparative Focus* (Senri Ethnological Reports 77), 89-99. Osaka: National Museum of Ethnology.
Subba, T.B. and Sinha, A.C. ed. 2016. *Nepali Diaspora in a Globalised Era*, Routledge.
Tanaka. 2017. Self-help Organisations as Interfaces for the Integration of Nepalese Migrants: A Case Study in Ota and Oizumi, Gunma Prefecture, Japan, In Benny ed. *Settling Down The Struggles of Migrant Workers to Adapt*, Penerbit PT Kanisius, 11-41.
Yamanaka, K. 2000. Nepalese Labour Migration to Japan: From Global Warriors to Global Workers, *Ethnic and Racial Studies*, (23)1: 62- 93.

もりもと・いずみ (41期卒)
明治学院大学国際学部

Living in a Globalizing World An Aspect of Contemporary Nepal

MORIMOTO Izumi
Faculty of International Studies, Meiji Gakuin University